

会議名	飼料イネの研究・普及に関する情報交換会 －自給飼料増産における飼料イネの役割－
開催日時	平成18年3月6日(月) - 7日(火)
開催場所	さいたま新都心合同庁舎(さいたま市)
主催者	(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 畜産草地研究所
参加人数	約280人(民間・公立機関及び独法の研究者)
1. 会議の概要(500 - 1000字程度または議事内容の資料添付)	<p>稲発酵粗飼料(WCS)の生産・利用への期待が大きくなっている。米の生産調整の拡大と、自給飼料増産の必要性の拡大がその背景にある。本年度は「稲発酵粗飼料生産・給与マニュアル」が4年ぶりに改訂されることになり、現地の要望に即した技術開発の成果の盛り込まれた改訂版の発行が期待され、「飼料イネ」に関する4年間の研究レビューも行われた。そこで飼料イネに関わる研究者、普及・行政担当者等が会して飼料イネの生産・利用技術の定着と作付け拡大を目指した研究推進と成果の普及活用並びに今後の重点方向を議論する研究・普及に関する情報交換を行った。</p> <p>先ず日本大学阿部亮教授が「自給飼料拡大に向けた地域の協力体制と飼料イネ生産における研究と普及の連携」ということで基調講演を行った(後述)。続いて本省生産局畜産振興課榎田課長補佐が行政の取り組みとして「自給飼料増産に向けた取り組みについて－進捗状況と今後の対応」を話題提供した。自給飼料政策の基本的な考え方を述べた後、飼料増産の行動計画として、稲発酵粗飼料の作付け拡大、国産稲わらの利用拡大、放牧の推進、外部化の推進を上げた上で、今回の会議の課題の飼料イネの取り組みを詳しく紹介した。その幾つかを上げれば、専用品種が開発されており、品種の特徴、増殖・配布状況。耕畜連携による飼料増産推進体制の構築の必要性と取り組み状況。普及啓発・周知徹底の方策。技術指導の取り組み。作付け拡大を推進するために講ずる関連施策などである。</p> <p>さらに取り組み事例の紹介が4県から発表された。秋田県の横手の取り組みでは、耕畜連携による生産計画の策定段階の重要性、飼料イネの品質管理の重要性を上げ、さらに栽培・収穫調製・輸送保管・給与体系の現状と改善すべき問題が上げられた。群馬県からはコントラクターの取り組み事例が報告され、畜産農家からの要望の聞き取りを行ったり、トレーサビリティを実施して品質管理に努め</p>

	<p>ている状況が報告された。愛媛県からは西条市の3戸の酪農家の取り組みであり、ソルゴーやイタリアンライグラス、エン麦と飼料イネをうまく組み合わせて湿田の多い地域で実例である。熊本県からは(有)やまうち農産の水稻と一部水田に飼料イネを組み入れた肉用牛繁殖経営の事例である。いずれも1事例の感はあるが、それぞれ条件に応じた創意が感じられた。</p> <p>2日目は改訂版「『稲発酵粗飼料生産・給与マニュアル』の特徴と活用法」が小川増弘部長から、「飼料イネ研究レビュー」の紹介、4年間の研究でどこが進展したかーについて吉田宣夫上席研究官から報告があった。両者は表裏一体をなすものである(後述)。</p> <p>以上の報告を受けて2時間弱の総合討論が、品種問題、栽培問題、収穫調製、給与(肉牛・乳牛)に分けて質疑、情報交換が行われた。</p>
<p>2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表課題・話題提供名(分野と課題提供名ごとにその概要を200400字程度)</p>	<p>基調講演の阿部氏は乳牛飼養の歴史的を栄養学的に振り返りながら、日本酪農が乳質改善と高乳量の双方を狙ったがゆえに、稲ワラを切り捨て耕畜連携の輪を解き、乾草の輸入を加速させたことを指摘し、しかしまた輸入乾草もその栄養組成からみて決して救世主ではないとして、従来の稲ワラに稲発酵飼料を、輸入乾草にトウモロコシ・牧草サイレージを置き換える飼料構造の提案を行った。稲発酵飼料にそう言う位置づけを与えた上で、研究、普及・指導の役割、改善の方向を示している。研究に関してはマニュアルやレビューのところで述べるので省略するが、普及に関しては、普及関係者が稲発酵飼料を組み込んだ飼料設計を栄養管理と飼料コストの両面から酪農家に提示し、それを酪農家が実施したならば、これを多面的にモニタリングし、更に改善事項を提示するシステムを提案している。更に地域農業の中での飼料イネの役割、位置づけを明確にすること、食品製造副産物ををも加えた地域TMRせんたーの設置も提案している。</p>
<p>3. その他の発表で関心のあったもの(課題ごとに概要を400字程度)</p>	
<p>4. 今後研究開発課題採択に当たって参考にすべき事項等</p>	<p>前記「マニュアル」並びに「レビュー」に飼料イネに関する今後の研究開発の方向が詳しく述べられているので、その主なものを要約して列挙する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高消化性、早晩の多様な品種の育成、給与分野と連携した耐病性・耐倒伏性・耐寒性の育種 2. 直播栽培の安定化、飼料イネと牧草・飼料作物の二毛作体系と

	<p>その経済性評価、雑草・病虫害・漏生粉対策</p> <p>3．汎用機による低コスト収穫、自走式細断ロールペーラの市販化</p> <p>4．畜草1号に次ぐ乳酸菌の開発、TMRシステムの構築、品質（カビ・適期収穫）向上システム、流通化に向けてのトレサビリティシステム</p> <p>5 肉質向上に向けた調製－給与の総合マニュアル</p> <p>6．栄養価の簡易評価法、乾乳牛・育成牛への給与技術、</p>
5．報告者	太田 顯